

2017年 **2**月 **5**日(日) 午前9時30分受付開始 工学部 11号館

**10時～11時** リレートーク「がんばれ！社会教育～学習都市・東京への提言～」

- ・尚綱学院大学学長 合田隆史氏(元文部科学省生涯学習政策局長) ・E S D活動支援センター次長 村上千里氏
- ・J V C A(日本ボランティアコーディネーター協会) 事務局長 後藤麻理子氏

**11時～12時** 分科会で議論すること・したいこと 提案：実行委員会

**13時～15時30分** 分科会 伊藤国際学術研究センター (東京大学構内)

**第1分科会「東京2020オリンピック・パラリンピックから広がる地域・市民活動」**

「人材育成」「文化」「共生社会」「持続可能性」「ボランティア」等、多様な可能性を含む「東京2020オリンピック・パラリンピック」。この機会をどう活かし、何をレガシーとして残していくか、一緒に考えましょう。(ファシリテーターと事例報告者：調整中)

**第2分科会「防災を通じたコミュニティ形成のススメ」**

日々の生活に関わる防災、気付くと防災を楽しんでいる、そうした魅力的なアイデアは、住民の自発性を育むコミュニティ形成に結びつく魅力的なヒントの宝庫。「楽しむ」をポイントに防災によるコミュニティ形成の方法を考え、実践の契機にしていきましょう。

- ・基調講演「防災とはいわない防災とは何か」 講師：渥美公秀氏(大阪大学教授)
- ・パネルトーク ファシリテーター：渥美公秀氏  
パネラー：長谷川大氏(街ing本郷代表理事)「黄色いしるし作戦」(文京区)  
瀧澤征宏氏(地域防災コーディネーター育成機構代表) 杉並区「減災ふれあいウォークラリー」

**第3分科会「地域・教育・福祉が協働する子ども・若者支援」**

「子どもの貧困」や「若者の生きづらさ」に対する取り組みが広がる中、社会教育が役割を果たすために求められている、新たな協働を育む出会いと対話。社会教育関係者を始め、学校、福祉などの分野で関心を共有する多様な立場からの参加をお待ちしています。

- ・ファシリテーター：桜井高志氏(桜井・法貴グローバル教育研究所)
- ・事例報告 ①東京都教育庁「都立高校生自立支援」の取り組み 梶野光信氏(東京都教育庁社会教育主事)  
②「子ども村：中高生のホットステーション」(荒川区)等の取り組み  
大村みさ子氏(子ども村代表)、中泉理奈氏(荒川区社会教育指導員)  
③国立市公民館の青年室と喫茶コーナーの実践  
島本優子氏(喫茶わいがや)スタッフ、井口啓太郎氏(国立市公民館社会教育主事)

**第4分科会「少子高齢社会の地域づくり」**

高齢化と人口減少が進む社会では、日々言葉を交わせるような小さな地域社会の中で、お互いに学び、支え合う関係づくりが必要です。そうした地域社会の実現に向けて、信頼関係を育む学びと支援者の役割を考えます。

- ・ファシリテーター：松田道雄氏(尚綱学院大学特任教授・だがしや楽校発案者) ・事例報告者：都内2地域からの報告を予定

**第5分科会「市民の学び合いを支える実践力を培う」**

社会教育関係職員、ボランティア、民間セクター、他分野の専門職など、学び合いを支える多様な「コーディネーター」が学ぶ取り組みに、大学が関わる事例が生まれています。先駆的实践に学び、そのプログラムを体感し、「コーディネーター」の役割を考えます。

- ・ファシリテーター：伊東静一氏(元福生市公民館長)
- ・パネルディスカッション「コミュニティ学習を支援するコーディネーターの役割と力量形成」  
倉持伸江氏(東京学芸大学准教授)、高木悠子氏(北区立滝野川文化センター(株)旺栄)ほか
- ・ラウンドテーブル「実践の長い道行きを語り 展開を支える営みを聞き取る」  
複数のグループに分かれて実践報告を語り・聴くプログラム

**15時30分～16時30分** 分科会で学んだこと・気づいたことを持ち寄る全体会

- ・ファシリテーター：桜井高志氏(桜井・法貴グローバル教育研究所)

**16時30分～17時30分** 総括全体協議

- ・ファシリテーター：牧野篤氏(東京大学教授、本コンファレンス実行委員長)

**18時～20時** ネットワークを生みだす交流会 (交流会費 5,000円)

2017年 **2**月 **6**日(月) 午前10時～：フィールドワーク「現場で集う」

- コース**
- ・東京都教育庁「都立高校生自立支援」の取り組み
  - ・杉並区「減災ふれあいウォークラリー」(文部科学省・公民館GP採択事業)
  - ・国立市「自立に課題を抱える若者の社会参加支援」(文部科学省・公民館GP採択事業)

